

平成26年11月13日

四つのテスト

本日は、在籍年数の長い方はご存じだと思いますが、四つのテストが作られた経緯を紹介したいと思います。

1929年から始まった世界恐慌の時期に、ロータリアンが成し遂げた大きな業績の一つに、「四つのテスト」があります。ハーバート・テラーは、包装済商品の戸別訪問販売の職業分類を持つシカゴ・ロータリークラブの会員でしたが、やりがいのある職業を捨てた彼は、折からの経済不況のあおりを受けて、40万ドルの負債を抱えて、倒産に瀕していたクラブ・アルミニウム社の社長に就任します。

景気は冷え込んでいるし、社員の勤労意欲も落ち込んでいます。もしその操業が止まれば、250人の従業員が仕事を失うことは間違いありません。

普通の人ならば決してそのような役目は引き受けなかったでしょうが、ハーバートは、あえてその困難な仕事に挑戦したのです。そして、こんなときにこそ、全員が、倫理的なターゲットを掲げて正しい営業活動を行えば、必ず会社が再建できるのだということを実証するために、画期的な経営管理の指針を考え出したのです。それが「四つのテスト」です。

ハーバート・テラーが「四つのテスト」を社員に提示した当日に「世界で最も優れた調理器具」と書かれた広告の校正刷りが、彼の机に届きました。彼は、そのことを証明することはできないし、真実ではないかもしれないと言って、広告担当のマネージャーを呼び、すべての「最高」とか「最もよい」とか「もっとも見事な」のような単語を使うのをやめて、製品についての事実だけを述べるように指示しました。

それから2か月経って、会社が再び収益を上げ始めた頃、それぞれ宗教の違う四つの部署の責任者を呼んで、四つのテストが信仰上の教義に反しないことを確認した上で、全社員にこれをすべての職場で適用することを了解させました。従業員たちは印刷されたその文章を手にししながら、それぞれの職場でそれを実行し始めたのです。まさしくその単純さが効果的であり、興味をそそったのです。そんなとき、会社が印刷所に低い入札価格によって大きな注文をするという事件が起きました。印刷所が品物を届けてしまった後に、見積価格を大幅に間違ったことに気づき、無理とは思いながらも、会社にその差額を払ってもらえないかと尋ねてきました。合法的にまた社会通念上からも、会社はその訴えを無視することは可能でしたが、四つのテストの2番目の「すべての人に公平か？」にあてはまるとして、全額が支払われました。

クラブ・アルミニウム社の業績は改善を続け、5年後にはその借金は利子と共に完済し、15年後には、株主に多額の配当を分配するまでになりました。四つのテストは理想主義をはるかに越えて、極めて実用的なものだったのです。

シカゴ・クラブがその四つのテストの存在を知ったのは、1939年になってハーバート・テ

ラーが商工会議所でその話をした時に、偶然二人のロータリアンがゲストとして居合わせたからです。ハーバート・テラーが 1939-1940 年にクラブの会長になり、さらに国際ロータリーの会長を歴任した際、【四つのテスト】があまりにも素晴らしいので、全ロータリアンの職業奉仕の指針にしたいという声があがり、彼が会長に就任した 1954 年に、その著作権がロータリーに寄付され、今日に至っています。

これで会長の時間を終わります。

ありがとうございました。